



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

5. モモ胴枯細菌病（急性枯死症）発病樹の樹勢はやや強い傾向である

[要約]

モモ若木期（樹齢1～7年生）において、モモ胴枯細菌病（急性枯死症）の発病樹は、達観での樹相が「やや強い」以上の樹が多く、樹冠占有面積当たりの徒長枝本数がやや多い。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

本県の一部のモモ園で、急速な落葉と樹幹や主枝からの赤褐色の樹液流出を伴うモモ胴枯細菌病が主に秋期に発生しており、問題となっている。これまでの結果から、発病樹は樹勢がやや強い傾向がみられるため、樹勢が発病に影響を及ぼしている可能性がある。そこで、本病の発生と樹勢との関係を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 令和2年から令和4年までにモモ胴枯細菌病の発病樹及び健全樹を調査した（表1）。
2. モモ胴枯細菌病の発病樹は、健全樹と比較して、達観評価による樹勢が「やや強い」及び「強い」の割合が多い。また、発病樹では「弱い」と判断した樹はない。（図1、表2）。
3. 発病樹では健全樹と比較して、樹冠占有面積当たりの徒長枝本数がやや多い傾向である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 若木期での発生が多いため、地力の高い圃場などでは堆肥の多投入や過剰な施肥などは避け、樹勢を強くし過ぎないように管理する。



[具体的データ]

表1 供試した樹の年度と内訳

年度	調査本数	
	発病樹	健全樹
2020	3樹（4～5年生）	29樹（1～7年生）
2021	40樹（2～7年生）	10樹（2～7年生）
2022	9樹（2～3年生）	7樹（2～3年生）
計	52樹	46樹

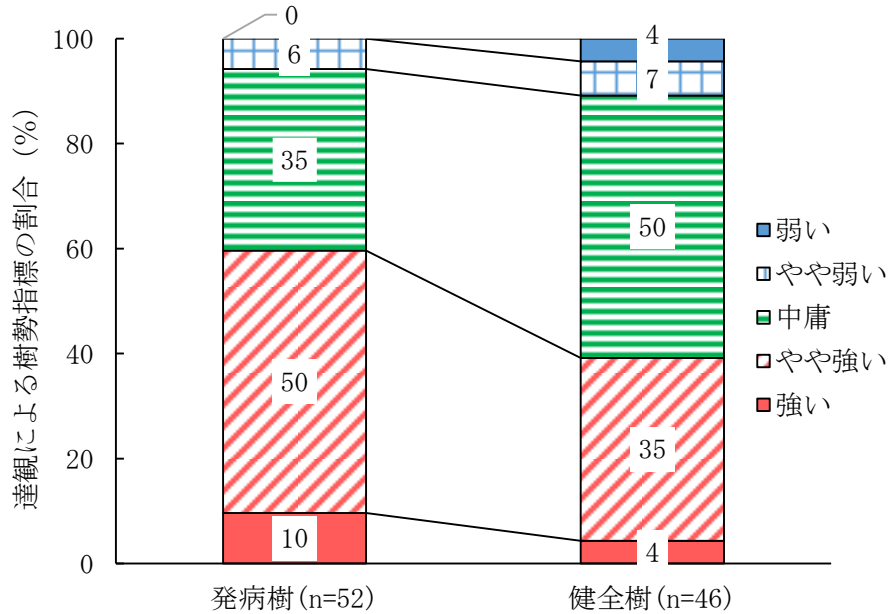


図1 発生園の発病樹と健全樹及び未発生園の樹の各達観樹勢の割合(%) (2020～2022年)

^z 樹勢評価は（1：弱い、2：やや弱い、3：中庸、4：やや強い、5：強い）の5段階評価で、樹齡、樹姿、主幹部の色、樹冠占有面積及び徒長枝本数などを加味して評価

表2 2020～2022年度^zの発病樹及び健全樹の樹相

樹	「やや強い」以上の割合(%) ^y	樹冠占有面積当たりの徒長枝本数 (本/m ²)
発病樹	59.6	4.3
健全樹	39.1	3.9
有意性	* ^x	ns

^z 樹冠占有面積当たりの徒長枝本数のみ、2021～2022年度のデータ

^y 樹勢評価は（1：弱い、2：やや弱い、3：中庸、4：やや強い、5：強い）の5段階評価で、樹齡、樹姿、主幹部の色、樹冠占有面積及び徒長枝本数などから評価

^x 割合は χ^2 検定、徒長枝本数はt検定により、5%水準で*は有意差あり、nsは有意差なし

[その他]

研究課題名：果樹等の幼木期における安定生産技術の開発

予算区分・研究期間：受託（農林水産研究推進事業（受託プロ））・令2～6年度

研究担当者：佐々木郁哉、河村美菜子、桐野菜美子、苧坂大樹、川上敦子、森次真一、水田有亮

関連情報：1) 試験研究主要成果、[令3 \(25-26\)](#)